

## 平成28年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第2年次）（概要）

1 研究開発課題	<b>Deep in Tokushima</b> ～徳商版「地域創生」人材育成プロジェクト～
2 研究の概要	<p>地域の産業を担い第一線で活躍できる専門的職業人を育成するためのカリキュラムを開発するとともに、そのカリキュラム開発研究のために、各学科の特徴に合わせて授業を展開した。</p> <p>商業科では、観光ガイド・商品開発力を持った人材の育成に重点を置き、学校設定科目「観光ビジネス」を3年生ビジネス経済コースで開講した。また、3年生マーケティングコースでは、2年次に履修した「商品開発」の授業3単位に引き続いて、2単位を開講し商品開発に関する研究を深めた。その中で、郷土の歴史や文化に触れることで地域の魅力を創出するとともに、市場に流通させることを目的にした定番商品の企画・開発に取り組んだ。会計情報科では企業研究と財務諸表分析、徳商デパートの会計処理や「BATIC」講習会の開催、情報処理科では地域の企業などに対する「Web作成支援」などを実施した。</p> <p>今年度新たに開講した学校設定科目「観光ビジネス」では、まず、観光のしくみ、観光資源、観光事業と組織、観光がもたらす様々な効果など、観光ツアーを企画するために必要な基本的知識の習得を図った。そして代表生徒が、東日本大震災の復興を目指す宮城県女川町を訪問し、街の再生について学んだり、沖縄県を訪問し中国、台湾との観光交流や海洋観光について学習した。さらに、「親子対象ツアー（7月）」、「海外研修生対象インバウンドツアー（10月）」を企画し代表生徒がガイド役、添乗員役となりバスツアーを実施し、「観光ビジネス」の授業の教材として活用した。徳島の観光資源について研究した成果を活かし、グループに分かれて観光ツアーのプランを企画するとともに、徳島市観光協会など専門家の方々に対しプレゼンテーションを行い評価を受けた。併せて、そのツアー企画と発表を評価するためのルーブリックも作成。1月にはツアー企画の仕上げとして、クラス全員で相互ガイドを行いながら、LEDを活用し栽培した無農薬の野菜の昼食、鳴門の渦の道など、徳島県北部を中心としたツアーを企画・体験した。</p> <p>また、科目「商品開発」では、食品系・非食品系の研究を行い、企業と連携し、地域産品を活かした20品目の商品の開発や「アイライナー」と「ビューラー」を合体させた「ビューライナー」を考えた。</p> <p>Glocal プロデューサーを育成する取組として、9月にドイツから生徒を受け入れ、交流を通してコミュニケーション能力の向上を図るとともに、11月には、カンボジアから生徒を受け入れ、カンボジアの生徒と共同開発した商品をプロスポーツイベントの試合会場において販売した。また、年2回カンボジアを訪問し、現地で共同開発商品のマーケティング調査及び国際展示会への出展を行った。</p> <p>その他、今後、観光産業や情報関連企業で需要が見込まれる先端的映像技術の習得を目指し、プロジェクトマッピングについても課題研究の中で取組をスタートさせた。</p> <p>なお、10月には、徳島の大型スーパー（フジグラン石井）において徳商デパート（販売実習）と併設したパネル展を実施し、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの活動内容を広く県民にアピールした。</p>

### 3 平成28年度実施規模

全校生徒を対象に実施した。

### 4 研究内容

○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）

第1年次	事業の体制作り 生徒の動機付け 外部講師（観光）による講演会、パネルディスカッション 学校設定科目「観光ビジネス」の研究 地域企業のニーズの再確認 各機関の連携強化 事業の実施（必要な知識の習得） 第1年次意識調査・分析 施設の整備 カンボジアにおけるマーケティング調査 観光ツアーの開催（調査） 地域コンサルタントの輩出
第2年次	事業の実施（1年次の研究の実践） 学校設定科目「観光ビジネス」の開講 第1年次の研究成果を踏まえた事業の修正実施 学科間の活動内容の共有 カンボジア（海外）における販売実習 日本における海外の生徒（カンボジア・ドイツ）との共同販売 観光における魅力の創出 観光ツアーの開催（創出した魅力を盛り込んだ実践） 地域の魅力を創出し、プロデュースできる人材の輩出
第3年次	事業全般の検証と再実施 成果報告会の実施 成果の広報 グローカルプロデューサーの輩出 学校設定科目「観光ビジネス」における評価の研究 地域産業界が求める人材を育成するプログラムのモデル化の完成 報告書の作成と成果の普及

○平成28年度の教育課程の内容（平成28年度教育課程表を含めること）

教育課程表：別紙参照

○具体的な研究事項・活動内容

#### （1）地域コンサルタントの育成

- ・地域企業と連携した商品開発
- ・地域企業と連携したイベントのプロデュース
- ・宮城、沖縄などの学校と連携した商品開発
- ・企業研究と財務諸表分析（同業他社分析）
- ・徳商デパートの会計処理
- ・地元企業8社に対するホームページの作成支援や広報の支援
- ・効果の上がる情報運用や映像撮影方法の学習

#### （2）観光ガイドをする力・商品開発力を持った人材の育成

- ・3年生ビジネス経済コースにおける観光バスツアーの実施
- ・観光都市（沖縄・女川など）との交流による観光についてのノウハウの習得
- ・学校設定科目「観光ビジネス」の研究
- ・徳商デパートにおける小学生向けバスガイド体験の運営
- ・代表生徒による親子参加型ツアー 外国人対象ツアー
- ・プロジェクションマッピングを用いた地域支援を目指した映像の研究

#### （3）Glocal プロデューサーの育成

- ・カンボジアとの共同による商品開発やイベントでの共同販売の実施
- ・カンボジアにおけるマーケティング調査や国際展示会への出展
- ・テレビ会議を活用した交流会
- ・Facebook、LINEなどSNSを活用した交流
- ・B A T I C 講習会の受講
- ・外部講師による情報活用能力を高める講座の受講

## 5 研究の成果と課題

### ○実施による効果とその評価

地域コンサルタントの育成については、多くの生徒が地域の企業と関わる機会が得られ、3学科とも概ね計画通り実施することができた。また、地元企業・地域の抱えている問題点を身近なものとして捉えられるようになった。事業の2年目においても概ね計画どおり実施することができ、地域のことをよく学び、地域の様々な問題に対して柔軟に対応しようと前向きに取り組めた。

観光ガイド・商品開発力を持った人材の育成については、今年度より開設された学校設定科目「観光ビジネス」の授業を通して、地元観光資源の発掘や地域の魅力創出に真剣に目を向けさせることができた。また、グループワークや授業発表会などを通してコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上にも繋がっている。さらに、県外の観光都市や海外の国に対しても興味を示すようになり、地元徳島と比較するなど積極的な態度も見受けられるようになった。

Glocal プロデューサーの育成については、昨年度に引き続き、カンボジアとの商品開発や共同販売などを実施することにより、国際的な視野を持ち様々な人とのコミュニケーションが図れる能力を育成することができた。また、高校卒業後、海外で活躍することを希望する生徒が出てくるなど、大きな成果が現れつつある。今後もテレビ会議やSNSなどを活用し、海外との交流を積極的に進め、Glocal プロデューサーを育成していきたい。

### ○実施上の問題点と今後の課題

観光ビジネスの授業実施上の課題としては、実施したい内容を全部行おうとすると、2単位では時間数が不足しているということが挙げられる。この授業においては、単に知識の伝達ではなく、生徒それぞれがしっかりと考え、表現することが大切であると考えている。そのため、来年度に向けては、授業内容を精選し、観光に関わる基本的な知識は押さえつつ、理解と表現する機会を作れるよう工夫する必要がある。また、評価についても、授業内容を精選するのに伴いルーブリックなどを含めて再度、修正・検討していく予定である。

Glocal プロデューサー育成の課題としては、どれだけ多くの生徒に国際感覚を身につける機会を増やすかである。海外を訪問した生徒、カンボジア、ドイツの生徒が来校したときに中心となって対応した生徒については、大きな意識の変化が見られた。今年は、昨年までに比べ多くの生徒が関わる環境作りを行ってきたが、効果を大きくしていくためには、さらなる工夫が必要であると考えている。本校に短期、中期の留学生を受け入れるなど学校全体でグローバル人材を育てる意識と環境作りすることが大切であり、委員会を立ち上げて検討していきたい。

また、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業の目的や目標を、全教員が十分理解して教育活動にあたる必要がある。計画通りこの事業に取り組んでいるが、取組に対する温度差が学科間、教員、生徒に見受けられる。今後、学校全体に取組を普及させていくことが課題であるため、全校的な中間報告会の実施や専門家を招いた運営指導委員会への商業科全教職員の出席など、まずは教職員全体での取組になるよう努力している。さらに、4月からは「地域活性化委員」をクラス委員の一つとして発足し、各クラスにSPH事業のリーダーとなる人材を育成することにより全校的な取組になるよう工夫していく。